

## 当院初診時における思春期発達障害患者の受診動向からみえたもの

○北林 千絵(看護師) 本田 りえ(看護師)  
医療法人耕仁会札幌太田病院 外来

### 【はじめに】

近年、発達障害が書籍やメディアで多く取り上げられ、社会的認知が広まり、当院の思春期外来に「発達障害なのか診断して欲しい」という相談が多く寄せられる。一方で診断や支援・治療を担う医療機関は限られ、受診を希望してから実際に医療機関へ受診するまでの待機期間が長期化し全国的に問題となっている。全国的に支援ニーズが高まりながらも受診までの待機期間が長期化している深刻な状況が当院での思春期外来でも同様に起こっているのか実態を調査する。

### 【対象者・方法】

対象者：2019～22年度に来院された初診患者、最終受診より5年経過した新規受診者含む3,225名のうち、発達障害と診断された思春期患者(18歳迄)176名を対象(副病名は含むが疑い病名は含まない)  
方法：後方視的に初診台帳、電子カルテから対象者を抽出、初診相談から受診に至るまでの期間を調査

### 【調査結果】

#### 1、全初診患者と初診思春期患者の人数および発達障害と診断された思春期患者の人数

2019年度初診患者652名中、初診思春期患者91名、発達障害と診断された思春期患者31名  
2020年度初診患者732名中、初診思春期患者105名、発達障害と診断された思春期患者27名  
2021年度初診患者846名中、初診思春期患者157名、発達障害と診断された思春期患者47名  
2022年度初診患者995名中、初診思春期患者235名、発達障害と診断された思春期患者70名  
※2022年度より思春期外来を担当する医師が1名増員される

#### 2、発達障害と診断された思春期患者が思春期外来を希望してから受診に至るまでの平均待機期間

2020年度平均12日 2021年度平均18日 2022年度平均39日

### 【考察】

調査の結果、発達障害と診断された人数、初診相談から受診に至るまでの待機期間共に2019年度から22年度までに倍以上に増加し当院でも全国同様、待機期間が長期化していることが明らかになった。更に、思春期患者自体も年々増加し21年度から22年度の1年間だけでも78名も増加している。22年度より思春期外来を担当する医師が1名増員されたが、それ以上に思春期外来の受診を希望する方が増加しており需要に供給が追いつかないため、結果として予約が取れず受診に至るまでの待機期間を延長させたと考えた。当院では、現在も待機期間解消の為、子どものこころのコンシェルジュなどの相談機関や児童相談所などの介入機関、学校カウンセラーと連携し、予約日以外にも緊急での診察や入院を受け入れている。また、予約のキャンセルが出た際にはキャンセル待ちを希望している待機者に連絡し、1日でも早く受診出来るよう初診待機解消のために時間をかけ日々取り組んでいる。今回の調査結果を踏まえ、今まで以上に待機期間解消の為の取り組みを強化し、当院の受診を希望された方のニーズに応えることが出来るよう今後も日々取り組んでいく。